

新生児・乳児保健指導の問題点

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 安次嶺 馨

要約：家庭で児に問題があった時の相談相手としては家族が最も多い。医師と答えた者はNICU児の母62%、正常児の母43%で前者が高かった。保健婦は相談相手として最も少ない。家庭での養育上問題となることは、栄養法(母乳栄養、離乳のすすめ方)、健康状態(発熱・下痢)、内服薬に関することである。

見出し語：NICU入院児、保健指導

方法：新生児の養育に関し、家族はどのような問題を持ち、どのような指導を求めているかを知る目的で、母親にアンケート調査をした。対象は当院NICUへ入院した児と当院で出生した正常児の母親である。NICU児の母29人、正常児の母117人がアンケートに回答した。

結果：表1、表2に示した。

考察：家庭で児に問題があった時の相談相手として家族が最も多い(76%)。ついで医師・友人・保健婦の順であった。医師と答えた者の割合はNICU児の母62%、正常児の母43%で、前者が高かった。

家庭での養育上問題となる点は、栄養法に関することが最も多く、ついで健康状態、環境に

関することが多い。沐浴に関してはあまり問題はない。内服薬に関してはNICU児の約1/3が何らかの指導を求めている。栄養法に関しては、離乳食の作り方・すすめ方・開始時期、母乳栄養、ミルクの選択・増量の仕方などである。児の健康状態に関しては、発熱、かぜ、便の性状(下痢・便秘)、鼻閉、アレルギー、皮膚病変などが最も多い訴えであった。

未熟児やハイリスク児の保健指導に重要な役割を担っているのは医師と保健婦である。現実には両者の協力関係が密でなく、保健指導が効果的に行われていない。母親たちが相談相手として保健婦をあまり求めていないのはそのためであろう。今後、医師・保健婦間の連繫を深め、よりより新生児・乳児保健指導法を確立しよう努力する必要がある。

表1 家庭で赤ちゃんに問題があった
時の相談相手

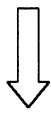
	NICU児の母 29人	正常児の母 117人
家族	22(76%)	91(78%)
医師	18(62%)	50(43%)
友人	4(14%)	30(26%)
保健婦	5(17%)	14(12%)

表2 家庭での保育上問題となる点

	NICU児の母 29人	正常児の母 117人
栄養法	23(79%)	105(90%)
健康状態	19(66%)	73(62%)
環境	14(48%)	42(36%)
沐浴	5(17%)	20(17%)
内服薬	10(34%)	18(15%)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:家庭で児に問題があった時の相談相手としては家族が最も多い。医師と答えた者はNICU児の母62%、正常児の母43%で前者が高かった。保健婦は相談相手として最も少ない。家庭での養育上問題となることは、栄養法(母乳栄養、離乳のすすめ方)、健康状態(発熱・下痢)、内服薬に関することである。